

国語 第2学年 主語と述語に 気をつけよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、文の中で「だれが・何が」と「どうする・どんなだ」が対応することを確認、伝わる文に直す。用語の暗記より、文を読んだ相手が同じ場面を想像できることを重視する。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「主語と述語に 気をつけよう」 教材名「主語と述語に 気をつけよう」

2 単元の目標

文の中の主語と述語との関係に気付ける。文章を読み返し、主語と述語の対応や語の続き方を確認められる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文の中の主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、文章を読み返し、主語と述語の対応や語の続き方を確認められている。（B(1)エ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

文の中で「だれが・何が」と「どうする・どんなだ」が対応することを確認、伝わる文に直す。用語の暗記より、文を読んだ相手が同じ場面を想像できることを重視する。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)カを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)エを加えている。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

独自例「ねこがはしる」と「ねこはしろい」を使い、主語と述語を線で結ぶ。自分の文からまず「どうした」を探し、その動作をしたもの確かめる。おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、主語と述語の対応や語の続き方を確認められているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○短い文のだれとどうするを結ぶ。組合せが合わない文を比較する。 評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時（本時）：○自分の文を直す。直した理由を説明する。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2/2）

（1）本時の目標

文章を読み返し、主語と述語の対応や語の続き方を確認められる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認め、自分の最初の考えを短く書く。

○「だれが、どうした文なのか、言葉を結ぶと合っていますか」

【めあて】文の中で「だれが・何が」と「どうする・どんなだ」が対応することを確認め、伝わる文に直す。
予想される児童の反応：・動いているのは小鳥だから、「小鳥が鳴く」とつながる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「だれが、どうした文なのか、言葉を結ぶと合っていますか」

独自例「ねこがはしる」と「ねこはしろい」を使い、主語と述語を線で結ぶ。自分の文からまず「どうした」を探し、その動作をしたもの確かめる。

自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。

予想される児童の反応：・動いているのは小鳥だから、「小鳥が鳴く」とつながる。

・「ぼくは」の後に妹の動きが続いていて、変だと思う。

・文を分けると分かりやすい。

指導上の留意点：独自例「ねこがはしる」と「ねこはしろい」を使い、主語と述語を線で結ぶ。自分の文からまず「どうした」を探し、その動作をしたもの確かめる。

想定するつまづき：主語と述語を遠くに離して別の人の行動につなぐ、述語を省いたまま文末にする。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 文章を読み返し、主語と述語の対応や語の続き方確かめている。（発言と学習記録）

知① 文の中の主語と述語との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)カ）（使った言葉・音読や表記の確認）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・文を分けると分かりやすい。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「だれが、どうした文なのか、言葉を結ぶと合っていますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

